

地域探究プログラム実施に関するQ&A

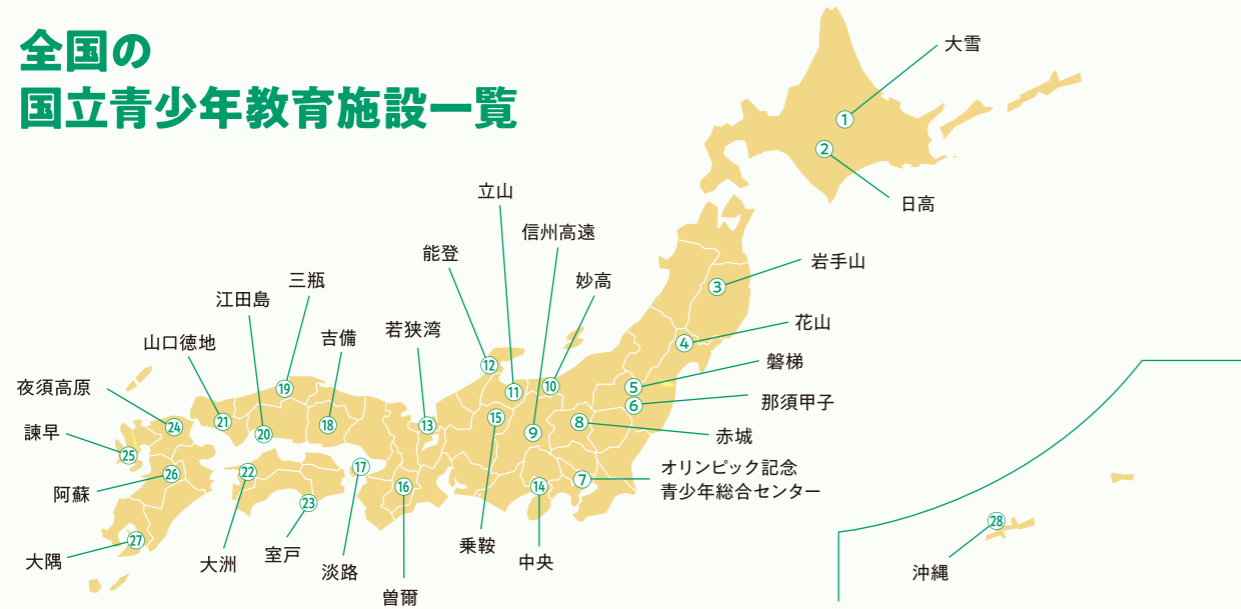
オリエンテーション合宿に参加するにはどのようにしたらよいですか？
全国の国立青少年教育施設で実施しています。開催の形態には個人単位で参加ができるものと学校等の団体単位(概ね20名以上の団体)で参加ができるものがあります。ご希望に応じて最適な会場等をご案内させていただきますので、下記お問合せ先までご連絡ください。

実践活動はどのように実施したらよいですか？
オリエンテーション合宿で実践活動実施のためのノウハウを学びます。それを活かして取り組んでください。活動は自身で行うこととなりますが、参加者一人ひとりに相談役として「支援者」を配置します。活動は、自身の居住地または通学する地域で行いますが、課題解決のための活動地域は限定しません。ただし、学校内・家庭内のみでの活動は認められません。

「地域探究アワード」へはどうやってエントリーできますか？
オリエンテーション合宿に参加し、実践活動を行い、実践活動報告書を提出することが条件です。毎年、12月ごろから各地で地域探究アワードの地方ステージが開催されるので、それまでにすべてをクリアしなければなりません。

費用はどのくらいかかりますか？
オリエンテーション合宿(2泊3日で実施した場合)の参加費は、おおよそ4,000円程度(食費・シーツ洗濯料・資料代等)です。その後の実践活動は各自で実施していただきますが、地域探究アワードの出場については一部交通費が支給されます。

全国の国立青少年教育施設一覧



- | | | | |
|--|--|---|---|
| ① 大雪青少年交流の家
北海道 上川郡美瑛町 TEL: 0166-94-3121 | ⑧ 赤城青少年交流の家
群馬県 前橋市富士見町 TEL: 027-289-7224 | ⑮ 乗鞍青少年交流の家
岐阜県 高山市岩井町 TEL: 0577-31-1013 | ⑳ 大洲青少年交流の家
愛媛県 大洲市 TEL: 0893-24-5175 |
| ② 日高青少年自然の家
北海道 沙流郡日高町 TEL: 01457-6-2311 | ⑨ 信州高遠青少年自然の家
長野県 伊那市 TEL: 0265-96-2525 | ⑯ 曾爾青少年自然の家
奈良県 宇陀郡曾爾村 TEL: 0745-96-2121 | ㉑ 室戸青少年自然の家
高知県 室戸市 TEL: 0887-23-2313 |
| ③ 岩手山青少年交流の家
岩手県 滝沢市 TEL: 019-688-4221 | ⑩ 妙高青少年自然の家
新潟県 妙高市 TEL: 0255-82-4321 | ⑰ 淡路青少年交流の家
兵庫県 南あわじ市 TEL: 0799-55-2693 | ㉒ 夜須高原青少年自然の家
福岡県 朝倉郡筑前町 TEL: 0946-42-5811 |
| ④ 花山青少年自然の家
宮城県 栗原市 TEL: 0228-56-2311 | ⑪ 立山青少年自然の家
富山県 中新川郡立山町 TEL: 076-481-1321 | ⑱ 吉備青少年自然の家
岡山県 加賀郡吉備中央町 TEL: 0866-56-7231 | ㉓ 諫早青少年自然の家
長崎県 諫早市 TEL: 0957-25-9111 |
| ⑤ 磐梯青少年交流の家
福島県 耶麻郡猪苗代町 TEL: 0242-62-2530 | ⑫ 能登青少年交流の家
石川県 羽咋市柴垣町 TEL: 0767-22-3121 | ⑲ 三瓶青少年交流の家
島根県 大田市 TEL: 0854-86-0319 | ㉔ 阿蘇青少年交流の家
熊本県 阿蘇市 TEL: 0967-22-0811 |
| ⑥ 那須甲子青少年自然の家
福島県 西白河郡西郷村 TEL: 0248-36-2331 | ⑬ 若狭湾青少年自然の家
福井県 小浜市 TEL: 0770-54-3100 | ㉕ 江田島青少年交流の家
広島県 江田島市 TEL: 0823-42-0660 | ㉖ 大隅青少年自然の家
鹿児島県 鹿屋市 TEL: 0994-46-2222 |
| ⑦ オリピック記念青少年総合センター
東京都 渋谷区代々木 TEL: 03-3469-2525 | ⑭ 中央青少年交流の家
静岡県 御殿場市 TEL: 0550-89-2020 | ㉗ 山口徳地青少年自然の家
山口県 山口市 TEL: 0835-56-0113 | ㉘ 沖縄青少年交流の家
沖縄県 島尻郡渡嘉敷村 TEL: 098-987-2306 |

全国高校生体験活動顕彰制度

地域探究プログラム

令和4年度報告書



お問合せ先

国立青少年教育振興機構 教育事業部 企画課 研修支援・連携係
TEL: 03-6407-7722 URL: <https://tankyu.niye.go.jp> MAIL: kikou-tankyu@niye.go.jp

詳細は
こちら▶



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

ご挨拶



独立行政法人
国立青少年教育振興機構 理事長

古川 和

この全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」は、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生の育成を目的とし、高等学校の「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を用いて学習を深めるプログラムです。（プログラムの詳細は次ページをご参照ください。）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けながらも、全国25カ所でオリエンテーション合宿が実施され、多くの高校生が地域での実践活動に取り組んでくださいました。また、全国8ブロックで地方ステージを開催し、200名近い高校生がエントリーしてくださいました。全国ステージでは、本格実施以降初めて対面で開催ことができ、各ブロックの代表者が、実践してきた活動についての発表を堂々と行い、高校生同士の交流を十分に図ることができました。また、「先輩サポーター」として、過年度の全国ステージ出場者の有志が集まってくださいました。出場者と先輩サポーターの交流は、双方にとってよりよい学びにつながったと思います。オリエンテーション合宿やその後の高校生の実践活動にご協力をいただいた地域の皆さま、地方ステージ・全国ステージにて評価をいただいた委員の皆様、その他関係者の皆様、そして何より参加してくれた高校生に深く感謝御礼申し上げます。

このプログラムを通して、多くの高校生が、地域の課題解決のために知恵を絞り、身体を動かし、地域の方や仲間と話し合い、地域と向き合うことによって、課題を「自分事」として捉え、その解決に取り組めました。高校生自身の学びだけでなく、地域にとっても非常に有意義なことであると改めて感じているところです。また、本プログラムは、学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を目指すうえでも非常に有効な取り組みだと考えています。私たちは、今後も高校生が「探究」を学び、新たな社会の担い手として自身の可能性を伸ばすことを支援したいと考えております。

最後に、参加をしてくれた高校生のみなさんにとって、本プログラムの活動で得た学びや経験が未来を切り開いていくうえで、貴重な財産となり、先の見通しにくい現代において、主体的に社会と関わり、よりよい人生を歩んでいかれることを祈念しております。



全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長
日本赤十字社 常任理事

板東 久美子

今年度も全国各地でオリエンテーション合宿が開催され、全国の高校生が主体的に活動してくださったことに感謝申し上げ、1人1人の努力に敬意を表します。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動に制限がある中でしたが、地方ステージ・全国ステージは対面実施が可能となり、高校生同士の交流も含めて無事に開催できましたこと、大変うれしく思います。開催に協力いただいた関係の皆さまに厚く御礼申し上げます。

地方ステージ、全国ステージでは、高校生ならではの発想と創造力を活かした素晴らしい活動や取り組みが発表されました。地域における少子高齢化・人口減少、環境問題、大規模災害など、多くの課題が顕在化中、高校生の皆さんは地域の状況に強い問題意識を持ち、自分たちが取り組むべきことを真剣に探り、行動を起こしていました。「探究」の学びを通して、自分自身や仲間たちと向き合い、試行錯誤を重ねて実施した活動は、よりよい地域の形につながっていくとともにSDGsの達成といった全世界共通の課題解決にも通じるものです。今回、この「地域探究プログラム」に参加したみなさんが、若きリーダーとして、自身の持っている課題意識を周りの人たちとも共有し、さらに社会にアピールし、少しずつでも地域や世界がよりよくなるよう、これからは頑張って実践を広げていただくことを期待しています。



全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」について

「総合的な探究の時間」 の学びをサポート

本制度では、平成30年度告示の学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」を軸に「地域探究プログラムで育成する高校生像」を整理し、これに基づいたカリキュラムを作成しています。カリキュラムを通じて「探究のプロセス」を学び、①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現の4つのプロセスを体験できるよう構成されています。また、カリキュラム1コマの時間も授業時間にあわせて50分とするなど、授業へ位置づけやすい工夫をしています。カリキュラムの実施にあたっては、講師となる地域活動の実践者の紹介や連絡調整、施設職員による先生方の指導補助など、先生方の授業をサポートします。

地域探究
プログラムで
育成する
高校生像

学びに向かう力
人間性等
どのように社会・
世界と関わり、
より良い人生を送るか

- 1 本プログラムの体験を踏まえ、新たな取り組みを考え、実行しようとしている。(学びに向かう力)
- 2 地域課題の解決に向けて主体的・協働的に取り組むことができる。(人間性等)

探究力

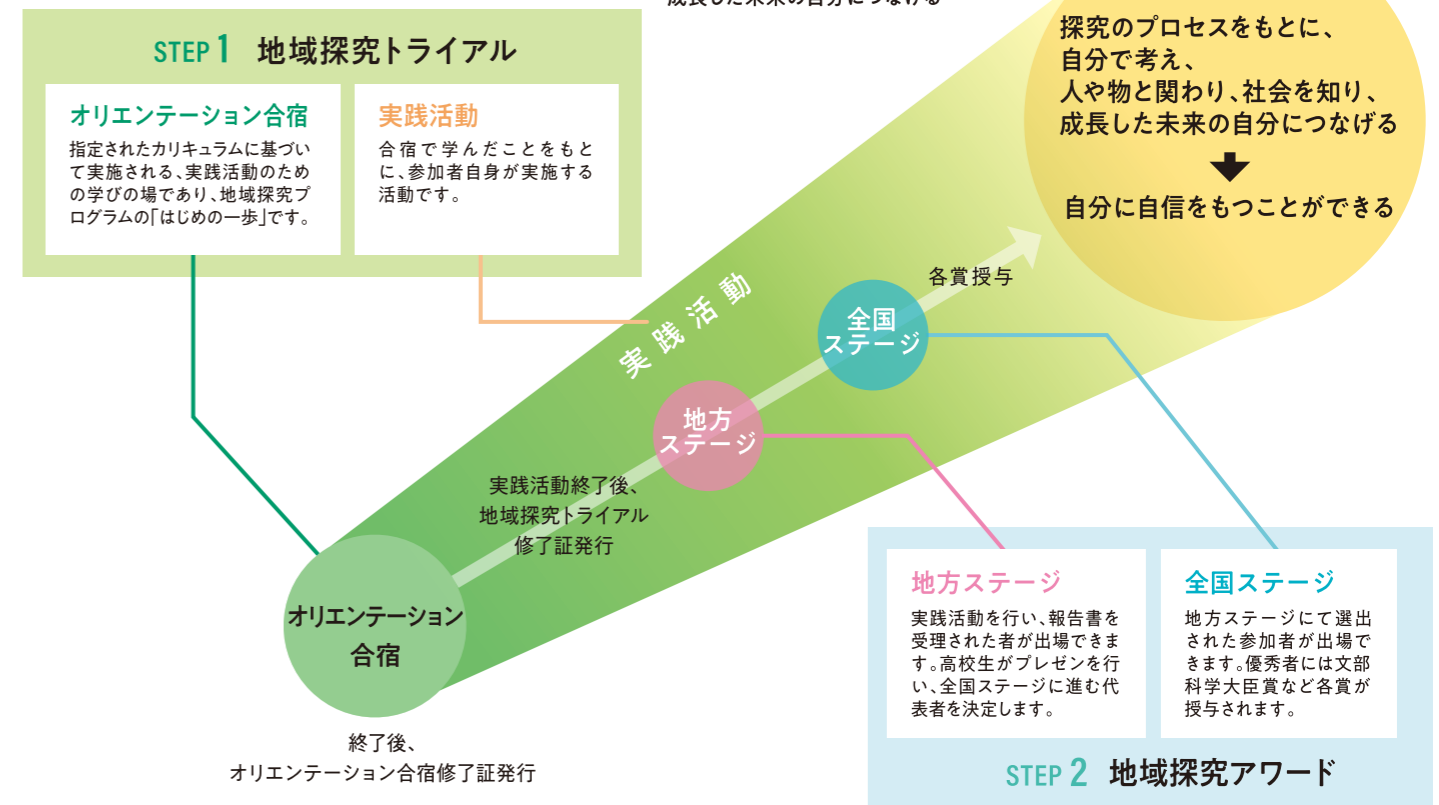
知識・技能
何を理解しているか
何ができるか

思考力・判断力・
表現力等
理解していること・
できることを
どう使うか

- 1 本プログラムでの体験により得た知識と既存の知識を関連付け、地域や自己を見つめ直すことができる。(知識)
- 2 本プログラムでの体験により得た技能と既存の技能を関連付け、身に付けることができる。(技能)(人間性等)

- 1 地域課題を知識・技能と結びつけ多面的・多角的に考察し、解決方法を持つことができる。(思考力・判断力)
- 2 伝えたい内容を的確に伝え、かつ相手に応じた表現を行うことができる。(表現力)

地域探究プログラムの構成





STEP 1 地域探究トライアル

カリキュラムや実践例などは、
高等学校教員向けパンフレットで
確認いただけます。



What's 学校・団体参加型

オリエンテーション合宿 ~学校・団体参加型カリキュラムA~

主催: 国立花山青少年自然の家 連携学校名: 宮城県築館高等学校
期間: 令和4年8月5日~6日、9月9日 ※コロナの影響により最終日のみ日帰り実施

特定の学校や団体と連携して
実施する合宿です。
カリキュラムはABの
2パターンから選択ができます。

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目					集合・受付 開会式	講話 「地域づくり の実践」	昼食・休憩 移動		フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」			夕食・休憩 夕へのつどい	講義・演習 「地域理解」 「課題解決の基礎」			入浴・休憩	就寝
2日目	起床 身支度等 洗面・ 朝のつどい	朝食	出発準備 移動			フィールドワーク② 「地域課題の探究」		移動 休憩	講義・演習 「地域課題 の探究」	夕食・休憩 夕へのつどい		講義・演習 「地域課題の探究」			入浴・休憩	就寝	
3日目							講義・演習 「地域課題 の探究」	発表①	講義・演習 「行動計画の基礎」	発表②	実践活動 のための ガイダンス	閉会式					

講話「地域づくりの実践」では、過疎高齢化集落を行政だけの力に頼らず、幼児から高齢者まで住民全員で主体的に町づくりに取り組み、地域再生を果たした鹿児島県鹿屋市串良町柳谷町内会(通称:やねだん)の豊重哲郎氏を招いて、地域づくりにかける熱い思いを語っていただきました。その思いを感じ取った生徒は、その後のフィールドワークで、市役所、介護施設、クリニック、道の駅、地域おこし協力隊、防災学習センター、栗駒山麓ジオパークなど地域で活躍するさまざまな分野の専門家から話を聞かせてもらい、合宿中に自分が立てた地域課題について、直接対象にふれ、体験することで学習が深まりました。



オリエンテーション合宿 ~学校・団体参加型カリキュラムB~

主催: 国立夜須高原青少年自然の家 連携学校: 福岡県立筑豊高等学校
期間: 令和4年5月20日、5月27日、6月10日、6月19日、7月8日

分野	No.	科目	目安時間	実施場所
導入	1	ガイダンス	1	学校で実施
	2	ワークショップ・講話等「地域づくりの理解と課題設定の基礎」	1~3	
	3	講義・演習①「地域づくりと探究」	2~3	
	4	発表①	1~2	
実行	5	講義・演習②「課題解決の探究」	任意	学校及び 周辺地域で実施
	6	発表②	任意	
	7	実践活動のためのガイダンス	1	

※新型コロナウイルス感染症状況を鑑み学校との協議の上、カリキュラム全内容を学校で実施しました。

直方市の炭鉱の歴史を学び、地域の発展と地域創生について学ぶワークショップや講話を行いました。講義・演習①では、直方市の観光についての意見交換や、ボランティア観光ガイドの案内で観光名所を散策し、直方市の魅力と観光に対する現状と課題を考える材料を集めました。講義・演習②では、直方市役所の観光課の方々や意見交換を行い、直方市でサイクルスポットやカフェ、ショップを経営する方々にインタビューを行い、地域や観光の現状と課題についての情報収集を行いました。



オリエンテーション合宿 ~個別参加型~

国立中央青少年交流の家「take the first step」
令和4年7月16日~18日

What's 個別参加型

個人や小グループを対象として
参加者を募集して実施する合宿です。

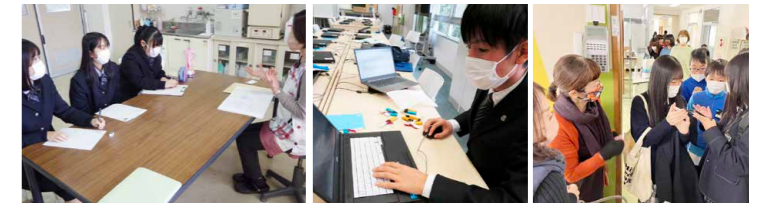
	7月16日	7月17日	7月18日
8:30~8:50	受付		
8:50~9:00	開講式		
9:00~9:50	ガイダンス	講義・演習② 「課題解決の基礎」	講義・演習④ 「行動計画の基礎」
10:00~10:50	講話「地域づくりの実践」		
11:00~11:50	昼食・休憩	昼食・休憩	
12:00~12:50	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	フィールドワーク② 「地域課題の探究」	昼食・休憩
13:00~13:50			講義・演習④「行動計画の基礎」
14:00~14:50			発表②
15:00~15:50	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習③ 「地域課題の探究」	実践活動のためのガイダンス
16:00~16:50			閉講式
17:00~17:50		発表①	



「地域づくりの実践」では、昨年度全国ステージにおいて 文部科学大臣賞を受賞した高校生の講話を聴くことにより、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高めました。「フィールドワーク①」では、観光・茶業・福祉・放置竹林と、分野が違う4つのコースから選択できるようにして、地域で活躍している講師陣から地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力や現状課題について考えました。発表①では、これまでの成果として、より有効な活動(解決策)とその根拠についてグループ発表を行いました。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基礎についても学びました。

実践活動

オリエンテーション合宿で学んだ探究のプロセスを活かし、個人・グループで高校生一人ひとりが学校外・家庭外の場所で地域の課題を発見し、計画を立て、課題解決に向けて5日間以上の活動を実践し、取り組んだ内容を実践活動報告書にまとめました。



STEP 2 地域探究アワード

地方ステージ

12月~翌年1月に全8ブロックの会場で地方ステージを開催しました。各ブロック出場者は、自身が行ってきた実践活動の発表を行い、地域の課題に対して取り組んできた同世代の高校生との交流も図りました。



全国ステージ

2月11日~12日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、全国ステージを開催しました。当日は、昨年度全国ステージ出場者である先輩サポーターの高校生に応援へ駆けつけてもらい、同じ志を持った高校生同士の交流や発表に向けてのアドバイスなど、様々な場面で協力をいただきました。



個人部門 文部科学大臣賞受賞

福島県立南会津高等学校
堀金 康太 さん

オリエンテーション合宿



「高校生ふるさと探究プロジェクト」

〈会場：国立磐梯青少年交流の家 / 令和4年7月16日～18日〉

大学の先生と地域おこし協力隊の方を講師に招き、SDGsの観点から地域の活性化について、様々なプログラムを体験しました。フィールドワークでは、猪苗代湖の水草観察・ヒシ集め体験、ゲストハウスの見学、重要文化財・ホテル訪問などを実施し、環境保全、古民家再生、観光資源などを基にした地域活性化について学びました。

〈事業担当者より〉

これらの体験は、高校生にとって、地域の魅力や課題を理解することができる貴重な機会となったと言えます。また、地域とのつながりを深めることで、将来的に地域に貢献する意識や意欲が高まったことでしょう。



実践活動（10月～11月頃実施）



只見町の田子倉湖で発生している外来種のブラックバス増加という地域課題に着目し、ブラックバスの処理方法が捨てるしかないことや処理の費用が財政を圧迫していることについて現状を把握し、地域の厄介者として扱われているブラックバスを料理して町の名産物にすることで地域再生の糸口になるのではないかと考えました。

ブラックバスをフライ調理し、地域資源を生かしてブナの実やエゴマを使用した調理方法を考え、関係施設や役場などにも協力を仰ぎ、町の文化祭で出店・発表の場を設けてもらいました。文化祭では、調理・販売をするために、食品衛生責任者資格を取得し、試食提供を行いました。食べた方からは、「意外とおいしいもんだね」「うまい!食べやすいね」など感想をいただきました。

今後は、只見町と連携しながらブラックバスを使用した料理の商品化を進めていくと同時に、販売をしていただける業者も探していき、過疎化が進む地域の活性化に向けて地域の魅力を発信していきたいです。



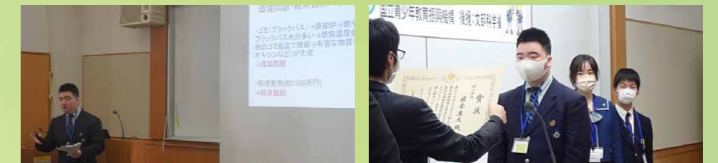
地方ステージ（東北ブロック）



〈会場：国立磐梯青少年交流の家 / 令和4年12月24日〉

個人部門3名が出場し、オンラインにて実践活動の取組を発表しました。評価委員を前にしての発表は緊張もありましたが、活動についての質問にも適切に答え、委員からの講評では新たな気づきもありました。

全国ステージ出場



各ブロックから選出された計6名の高校生が自身の活動について発表を行いました。前日のリハーサル時には、先輩サポーターに発表様子を確認してもらい、声の大きさやスライドの内容などについてアドバイスをもらいました。

グループ部門 文部科学大臣賞受賞

鹿児島県立鹿児島中央高等学校
山下 みこと さん

志学館学園志学館高等部
東 琉斗 さん

オリエンテーション合宿



「見よう!知ろう!伝えよう!地域の魅力!」 ～大隅の魅力を発見しながら探究の方法を学ぼう!～

〈会場：国立大隅青少年自然の家 / 令和4年7月16日～18日〉

県内各地から参加者が集まり、大隅地域で行っている「戦争遺跡ガイド」や「高須まち歩き」に参加しました。「戦争遺跡ガイド」コースでは、ガイドに必要な知識やスキルに加えて、地域のよさを発見する大切さや発信する楽しさなどを直接聞くことができ、地域を深く知るために必要な姿勢や人との関わり方を学ぶことができました。「高須まち歩き」コースでは、高須の歴史や地域の魅力を学ぶことができ、さらに地域の方々との意見交換の場を設けることができました。

〈事業担当者より〉

学んだことをもとに自身の地域課題を見つけ、発表しあい、課題解決の糸口を探し出す意見交換の場を作ることができたことは参加者にとって充実した時間となったのではないのでしょうか。



実践活動（7月～11月頃実施）



昨年度から実践している喜入地域で小中高生の学びのサポートをする任意団体「喜入マナビプロジェクトつわぶき」を存続させていくために、イベント企画運営や組織改編を行いました。団体所属メンバーの「得意(好きなこと)」を活かして、算数や英語をメインテーマとしたイベントを企画し、講師を招き実施しました。またお土産に地元の特産品を用意するなどして、地域のPRも視野に入れた活動を行い、参加者の方から好評をいただきました。さらに、地域の魅力を知ってもらうためのウォークラリーの企画や団体メンバーが考えた企画や展示を一挙に披露するイベント行事も実施しました。多くのイベント企画を実施する中で、団体運営の業務が多く、担当業務の人数を増やすなど、組織の改編を行いながら団体活動を継続しました。しかしながら、まだまだ団体の認知度は高くなく、喜入地域を含め団体の存在も広く知ってもらうために名刺の作成やテレビ取材なども受けて、存続に向けての活動を行っています。

今後も、地域と密に関り、その中で生まれた出会いや縁・つながりを活かして団体の活動を行うことで、団体認知度と私たちの活動についてより多くの人に知ってもらうための活動をしていきたいと考えています。



地方ステージ（九州・沖縄ブロック）



〈会場：国立阿蘇青少年交流の家 / 令和4年12月25日～26日〉

グループ部門5組が出場し、対面で実践活動の取組を発表しました。発表は26日の一日でしたが、出場者は前日に集まり、高校生同士の交流を深めるグループワークや発表に向けてのリハーサルを入念に行いました。

全国ステージ出場



各ブロックから選出された計8組のグループ27名が取り組んできた活動について発表を行いました。前日の交流会では、全国の高校生が各地域で実践してきた取組について様々な情報を交換することができました。



令和4年度 実施状況

オリエンテーション合宿実施施設	25施設	地域探究アワード地方ステージ出場者	116名
オリエンテーション合宿参加者数	653名	地域探究アワード全国ステージ出場者	33名
実践活動報告書提出者数	269名		



令和4年度 全国ステージ結果

部門	金賞・銀賞(別記)	ブロック	氏名	学校名	発表タイトル
個人部門	文部科学大臣賞	東北	堀金 康太	福島県立南会津高等学校	只見の町おこしとSDGsの推進のために ～田子倉湖の厄介者「ブラックバス」を、町の特産品にするために～
	国立青少年教育振興機構理事長賞	甲信越・関東	高島 愛歩	沼津市立沼津高等学校	静岡県の就労支援B型の工賃問題解決に向けて ～多くの人にこの問題について知ってもらうためには～
	全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞	甲信越・関東	林 咲心	新潟県立直江津中等教育学校	フォトモザイクで諏訪を笑顔に ～諏訪を繋ぐ2000枚～
	国立青少年教育振興機構特別賞	中部	竹下 勇生	石川県立鶴来高等学校	白山手取川ジオパークを未来へ! ～魅力発信と価値継承～
グループ部門	文部科学大臣賞	九州・沖縄	山下 みこと 東 琉斗	鹿児島県立鹿児島中央高等学校 志学館学園志学館高等部	つわぶき繋がり隊 ～「得意」と「つながり」大切に、つづく喜入のマナビバ～
	国立青少年教育振興機構理事長賞	四国	石丸 夏実 太田 樹菜 久保 夢七 津田 七羽 竹内 奏杷	愛媛県立長浜高等学校	長浜高校PR漫画 「長浜すく～らいいふ」製作委員会 ～海と漫画とJKと～
	全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞	中部	宇波 春咲 道淵 由真 高崎 心優 白石 心菜	富山県立氷見高等学校 富山国際大学付属高等学校	本当の魅力を伝えるための秘策 「内なる広報・見えざる壁の破壊」 ～立山山麓の地域融合～
	国立青少年教育振興機構特別賞	甲信越・関東	大瀧 睦 金城 圭悟	神奈川県立平塚中等教育学校	平塚市制90周年記念 SDGs自分ごと化プロジェクト ～完全オリジナルで動画制作～



私の活動(受賞者の実践活動紹介)

受賞者の報告書はこちらから確認できます。



個人部門

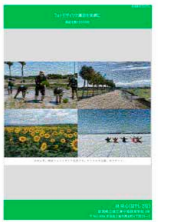


石川県立鶴来高等学校 竹下 勇生 さん

「若者に白山取川ジオパークの魅力や価値を知ってもらいたい」という想いから、地域のイベント行事などでの語り部活動や小中学校での発表、山の清掃活動などを行いました。今後もジオパークの素晴らしさを伝えていくために、修学旅行生への高校生ガイドやアクティビティの考案など県外への発信を意識した地盤固めを行っていくとのことでした。

新潟県立直江津中等教育学校 林 咲心 さん

少子高齢化などの課題に対し、諏訪地区を持続可能な地域へするために、魅力を知ってもらう手法として、フォトモザイク作成を企画し他地域へ発信する取組をしました。活動にあたり、校長先生や自治会長へ活動の協力を依頼し、自身の想いを伝えるチラシを全家庭に配布。諏訪地区に住む様々な年代の人から、素敵な写真を撮影してもらいました。今回の活動を通して、地域に住む人の温かい気持ちを感じられたとのことでした。



沼津市立沼津高等学校 高島 愛歩 さん

オリエンテーション合宿での活動で、静岡県の就労支援B型の賃金の低さを知り、「多くの人にこの現状を知ってもらいたい」という想いを胸に、障害者福祉について学べる本を制作しました。制作時は、小学生でも興味を持ち、理解できる内容にするため、4コマ漫画の導入の他に、文字の大きさや背景の色など構成も工夫しました。これからも継続して活動を行い、福祉に関する問題を知ってもらう活動をしていくとのことでした。



グループ部門

神奈川県立平塚中等教育学校 大瀧 睦 さん 金城 圭悟 さん

平塚市政100周年に向けて、市内で様々な活動をしている企業や団体をもっと知ってもらうため、「SDGs自分ごと化プロジェクト」と題して動画を作成しました。企画・撮影・編集を全て自分達の力で作り、映像内に流すBGMも作成しました。公開した動画は、地元企業をはじめ市の公式Youtubeチャンネルに公開してもらいなど、多くの反響を得たことです。地域との関わりの中で、社会に必要なコミュニケーションスキルを向上できたと語ってくれました。



富山県立氷見高等学校 宇波 春咲 さん 道淵 由真 さん 富山国際大学付属高等学校 高崎 心優 さん 白石 心菜 さん

オリエンテーション合宿で出会った他校のメンバーで、立山山麓地域の「芦峯寺地区」と「小見地区」の地域融合と、歴史と食の融合に焦点をあてて活動しました。地域応援ユニット「血の池ガールズ」を結成し、地域の伝統食文化を守る食堂の新メニュー考案。スキー場と合同でのイベントでは最多来客数を達成しました。今後も2つの地区の懸け橋となるよう発信活動を続けつつ、新たな地域の魅力を発見していきたいとのことでした。



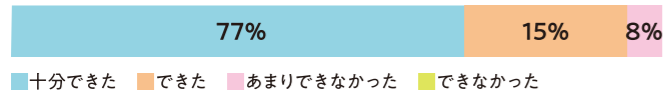
愛媛県立長浜高等学校 石丸 夏実 さん 太田 樹菜 さん 久保 夢七 さん 津田 七羽 さん 竹内 奏杷 さん

住民に地域が抱える課題についてのヒアリングを行ったところ、若者の減少や活気の減退が挙げられたため、その解決のために高校の入学者数を増やすことで、地域に関わる人を増やし愛着を持ってもらえるようにと、グループメンバーの強みを生かして4コマ漫画の作成を行いました。合計100時間を超える作業時間の中で高校の魅力を発信し、世界に向けての発信を意識して英語版も作成しました。結果として、多くのメディアに取材され、推薦入試の出願率が県内普通科高校トップとなりました。今後は、高校だけでなく地域全体の広報を漫画を通して行いたいと発表してくれました。



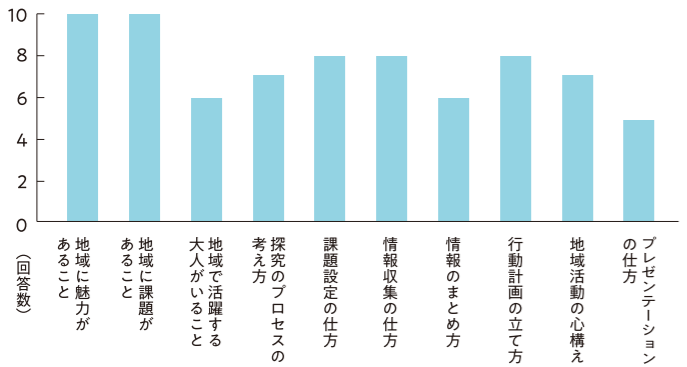
全国ステージ出場者アンケート

オリエンテーション合宿では、楽しく学ぶことができましたか？



- 一緒に活動する仲間や地域へ熱意を持って働く方がいたため、楽しい活動だった。
- 関わったことのない人と関わることができ、自分が見つめることができなかった視点で物事を見ることができたから。
- 自己を向上させながら楽しむことができた。
- 協力するということの大切さを知ることが出来た。
- 他の班の発表を聞いて学べるがあったため。
- 交流することができ、様々な地域の取り組みを知ることができ、友達も作ることができた。
- フィールドワークで実際に街を冒険することが楽しかった!

オリエンテーション合宿で学習したと思う内容は何ですか？(複数回答可)



オリエンテーション合宿に参加して感じたことを教えてください。

- 他の地域の魅力に気づけたことから、自分たちの地域にもまだ発見できない魅力があることのヒントをもらいました!また、県内の違う地区の高校生と交流することも初めてで、たくさんの刺激をもらいました。
- 自分だけでは見つけられない方法で考える人もいるので、視野を広げることは大切なことだと思った。
- 子どもでもアイデアを出して地域活動に関わることができるんだと感じた。
- 同じ課題に対して取り組んでいてもそれぞれ内容が違って面白かった。
- 他の高校の人と仲良くなれて、とても良い機会でした!また、地域探究に前向きな人が多く、話していて明るい気持ちになりました。
- 地域に自分自身が積極的に取り組むことができたこと。
- もっと長い時間体験活動やグループ活動したい。

実践活動を行って感じたことを教えてください。

- 地域の人のあたたかさに気づくことができ、これからは自分の地域を大切にしたいと思うようになった。また、活動するためには熱意を持ち簡単に諦めないこと、コミュニケーションをとることが大切だと気づくことができた。
- 続けることの大変さや、仲間の大切さを感じました。少ない時間の中でどれだけやれるかが1年間の差になると思いました。
- 始める前の活動に対する不安などがやりきった達成感によって活力に変わりました。私たちの実践活動に対して応援して下さったり、サポートして下さる方の存在も強く感じることが出来、感謝の気持ちと心強さが一層増しました!
- 自分たちの地域に人を集めることの難しさ、大変さ、そして、何よりも楽しく活動して行くことの重大さに気付きました。楽しく活動すれば、どんな事でも乗り越えて行ける気がします。
- 自分自身が地域に興味を持つことができ、楽しくインタビューや実践活動を行うことができた。
- 好きや得意を生かすことで、解決していく課題があるんだということ。
- 課題はもちろん、良いところもたくさんあって、悩んだところもあったけど良い活動ができた。
- 地域のことに関わることも大事だが、楽しむことも大切だと感じた。

全国ステージでの他の出場者や先輩サポーターとの交流は十分にできましたか？

- 初日の交流会でお互いの地域の課題や取り組みの類似点や異なる点、それぞれの地域に対する熱意を感じ取ることができ、プレゼンテーションを見て私達ももっと頑張れると元気を貰った。また、InstagramやLINEで繋がる事が出来て、お互いの活動を今後も見ることが出来るようになってとても嬉しいです!
- 他校の生徒と仲を深めることができた。大会が終わったあともお互いのプレゼンの感想を言い合ったり、仲良くなれてとても嬉しかった!
- とても仲良くなる事ができた。もっと時間が欲しいくらいです。連絡先も交換しました。
- 自分以外の人の話をよく聞き、どんな考えを持っているかなどを自分の中に入れることが出来た。

全国ステージに出場して感じたことを教えてください。

- 出場者全員が地域の課題に対して本気で取り組んでいる姿勢が伝わってきて、自分もまだ自分の地域でできることがあるなと思いました。本当に貴重な経験をさせて頂いて感謝の気持ちが溢れます。
- 各県ならではの活動をしていて、プレゼンを聞いて新しい学びができ、自分たちのプレゼンも今まで以上にできたので、とてもいい経験になり、自分の短所を少しでも克服できたかなと思います。
- 私が思い付かない発想だったりその地域の課題や解決の意図など、色んなことを考えていて、それを聞いたことは私にとって本当に良い機会だったし、貴重な経験になったと思った。
- 自分と同じ目標を持った人と話す中で、共感できる部分が多く、楽しい時間を過ごせた。同時に自分の力不足に気づいた。特にプレゼンで人を促すような発表が出来ていないことや熱意を持つ人が沢山いる中で自分の熱意が甘いことに気づいた。この経験を活かし、毎日の行動を変えてみようと思った。
- 全国ステージに行かなければ経験できないようなことをたくさん経験することができた。地方によって話し方や考え方の違いがあるということを手で感じる事ができ、そのすばらしさや尊さが分かった。これからは色んな人と関わっていききたいです。
- 自分の学校の取り組みはまだまだだと感じたものもあるし、他校のプレゼン発表はとても目を引くものであった。全国という大きな舞台で発表をできたことは貴重な経験であってとても楽しかった。他校の交流やふれあいも楽しかったです!

事業全体を通して得たもの(進路を考えるうえで役にたったこと、学んだこと、新しく挑戦したいことなど)があれば教えてください。

- 思っていることを人に上手に伝えるというのは、将来どこでも大切になる。しかし今の自分にそれができていないと特に全国ステージで感じた。相手がどんな言葉を使っているか、どうやったら人を動かす言葉になるか日々考えるようにしてみたい。
- 自分の活動してきたことが認められ、評価されたことで、自信がついたと思う。これからは実践活動を継続していきたい。
- 自分の得意分野を活かしてできることがたくさんあると言うことを改めて知ることができた。何事も挑戦してみることが大切だと思った。
- 今後の進路でやはり、地域に関わる学問を学びたいと再確認することが出来ました。
- 自分は喋るのが得意ではないので、全国ステージでの交流はとてもいい機会、経験になりました。
- 地域に発展させて地域の方にも広めていきたい!

参加学校教員の声

●素晴らしい経験の場をいただき大変感謝しております。この活動を通して、様々な立場の方々からお話を伺い、生徒たちは大きく成長することができました。多くの企業・団体の方々のご協力により、学校では体験することのできない貴重な学びの場をいただき、社会の中でしか得ることのできない力を身につけることができました。この経験が、将来どこかで活かされていくことを願っています。また、地域探究プログラムは、地域の課題に取り組む高校生の交流の場でもあると感じています。各地で地域課題に取り組む仲間と、同じ熱さで語り合い、有意義な時間を過ごすことができました。

●本大会への参加は、生徒たちにとっても、我々教員にとっても学びが多く、大変有意義な経験となりました。中でも、全国ステージでは、単に自分たちの取組について発表するだけでなく、交流会を丁寧を実施していただいたことによって、生徒同士の深いつながりができたことが、何よりも大きな財産になっている様子でした。自身と同じように熱意を持って地域のために活動している同年代の存在は、切磋琢磨し合えるライバルであり、勇気やヒントをもらえる仲間であるが、生徒たちにその存在を実感させる機会を作ることは難しいです。そのような中で、この地域探究プログラムは、一つの学校や地域の取組だけでは得難い経験と気づきを与えていただける非常に貴重なものとなっていると感じます。

先輩参加者インタビュー



令和3年度 グループ部門 文部科学大臣賞受賞 駒走 旬星 さん

全国ステージ後に取り組んだ地域での活動はありますか？

『Story Tailor』という、沼津であなただけのファッションをみつらえて、写真に残すプロジェクトを新たに実施しました。沼津駅南口近くにある衣料品店「サルトリア ルイ」に来たお客さんたちの想いや背景を聞き、オーナーさんがそれぞれのストーリーに合わせた衣服を製作します。製作した衣服を着用した姿をプロカメラマンが撮影し、ポスターを作成。活動の中では、参加したお客さんたちのポーズの考案やインタビュー、キャッチコピーの制作を担当し、2023年の1月~2月の間に沼津駅近くに掲示されました。

近況について教えてください。

全国ステージ出場後、大学受験の時期に差し掛かったため、当時行っていたプロジェクトを一時中断し、それから志望校(国立大学)の総合型選抜に向けて準備を始めました。志望理由書では地域探究プログラムで培った経験や実績をメインに、今まで自分が行ってきた取り組みや将来の理想を書き、一次選考である書類審査を通過。もちろん地域探究プログラム以外の活動も行っていました。昨年度の経験が受験に生きたことは間違いないと感じています。また、地方ステージ・全国ステージの経験から、二次選考の試験当日もあまり緊張することなく面接・プレゼンテーションに臨むことができ、最終的には第一志望校から合格通知をいただくことができました。

自身が参加した「地域探究プログラム」を振り返ってみてどう思いますか？

オリエンテーション合宿の時はまさか全国ステージに出場することになるとは思っていませんでした。純粋な好奇心や地域に対する問題意識から始まったプロジェクトでしたが、多くの大人や組織からの協力によって、最終的に文部科学大臣賞を受賞するまでに至ったこと、感謝しかありません。また受験の際にも、大学側が地域探究プログラムでの経験や実績を大きく評価していただいたことは間違いない、本当に参加してよかったと思っています。地域探究プログラムでは、誰かに言われて参加するのではなく、自ら地域の課題に対して取り組み、周りを巻き込み、よりよい地域の在り方を模索していくことで思考力や実行力が身につくのはもちろん、第三者の視点からその活動を評価していただけます。例え思うような結果にならなくても、そこまで頑張った経験や次に向けての改善点を探した期間は必ず自分の力になると思いますし、受験の際にも役立つと思います。

現在取り組んでいることや今後の目標を教えてください。

現在は大学入学後の学びに強く期待をしています。地域探究プログラムでの経験をベースに、大学でより専門的な知識を学び、企業と連携した実践経験を積むことで、自分の理想とするまちづくりの在り方を模索していく次第です。そのために、受験が終了した後は前述した「Story Tailor」の企画に積極的に取り組んだり、入学する学部についての知見を深めるために読書をしたりなど、卒業までの時間を自己研鑽にあてています。

全国ステージ後に取り組んだ地域での活動はありますか？

- 2022年3月9日に安中市観光機構主催の除草ボランティアに、団体としてお招き頂き清掃活動を行いました。
- 2022年3月10日~20日にかけて、碓氷峠に残る遺跡や名所を紹介するPR動画を新たに制作しました。
- 群馬県高校生会議主催の「前橋市高校生文化祭 2022」に団体として参加。横川、碓氷峠地区を紹介するPRブースを出展しました。
- 2022年3月29日に、群馬県安中市の「碓氷・関所保存会」の皆様にお招き頂き、自身の立案した地域活性化策の発表や意見交換などを行いました。
- 2022年4月2日、4月30日、5月8日には、安中市観光機構に団体としてお招き頂き、JR信越本線横川駅前にてPRブースを出展させて頂きました。尚、4月30日には横川駅にて行われた「SL出発式」に団体の代表として参列し、団体の名前をJR職員の方からご紹介頂きました。
- 2022年5月8日には、自身が以前から企画していた「学生向け廃線ツアー」を実施し、当日県内在住2名の高校生にご参加頂きました。ツアーの企画、実施にあたっては、安中市観光機構のご協力を頂き、企画書の添削やツアー当日の緊急時対応などでお世話になりました。(当日は、怪我等もなく無事にツアーを遂行することができました。)

近況について教えてください。

地域探究プログラムへの参加がきっかけで、地域活性化に関わりのある大学へ進む決意ができ、昨年無事に志望校へ合格することができました。現在は、昨年1月に自身で設立したボランティア団体の運営を行い、11名の仲間と共に活動しております。今年は、昨年解決することのできなかった地域課題の解決に向けて一歩前進する年にしたいと考えています。そこで、弊会では「めがね橋に案内板を設置する」ことを団体の活動内容として提案し、実際に実行に移していきたいと考えています。これまでの活動とは異なり、役所との交渉や民間企業、他団体との協力がより一層求められることになると考えています。昨年立案した課題「めがね橋の案内板不設置」の解決へ向けて議論を進めているところです。

自身が参加した「地域探究プログラム」を振り返ってみてどう思いますか？

団体を設立するきっかけとなった、オリエンテーション合宿でのグループワークは、とても良い経験になりました。参加後に、多くの方からお声がけを頂くようになり、活動の幅を広げることができるようになりました。課題解決方法など、受験期にとっても役立ちました。

現在取り組んでいることや今後の目標を教えてください。

- ・めがね橋における案内板設置を行いたいです。
- ・映像で群馬や地域の魅力を発信したいです。
- ・鉄道の力を活用して地域に活気をもたらしたいです。